

# ネットワーク型コミュニティが開く参加と協働

2007. 11. 07

(株)日本開発研究所三重 吉田 昌弘

<http://www.think-mie.co.jp>

1. 地域コミュニティ政策に関して
2. 人と人のつながりの再生
3. ネットワーク(型)コミュニティ政策
4. 【事例1】津市げんき大学
5. 【事例2】プロジェクトみえぢん
6. 個を生かす、やわらかいコミュニティの創造へ

## 1. 地域コミュニティ政策に関して

### (1) コミュニティとは

- 地域性（生活の場所）と共同性（共同意識）をもつ地域空間。
- 町内会・自治会、学区組織（コミュニティ組織）、NPOなど。

図表：マッキーバーの類型概念

類 型	概 念
コミュニティ	・地域性と共同生活の存在と共属感情による基礎的社会集団 ・共同関心により成立しており、何らかの自足性を持つ
アソシエーション	・特定の類似の関心に基づいて限定的目標を達成するための集団 ・人為的に構成

(資料：倉田和四生「コミュニティ活動と自治体の役割」『関西学院大学社会学部紀要』第86号、2000年)

図表：コミュニティ組織の類型化

コミュニティ組織の種別	具体的な組織例
i) 地区別地縁型コミュニティ	単位町内会、連合町内会、自治会等の地縁組織
ii) 属性別地縁型コミュニティ	老人クラブ、女性会(婦人会)、青年会、PTAなどの地域組織
iii) テーマ型コミュニティ	まちづくり協議会、福祉団体などのテーマ別自治組織
iv) アソシエーション	NPO、市民活動、コミュニティ・ビジネス企業等といった地域で活動している組織

(資料：『自治的コミュニティの構築と近隣政府の選択』財団法人 日本都市センターより富士通総研作成)

## (2) コミュニティを取り巻く環境の変化

- 社会経済環境や人口構造の重要な変化。
- ソーシャル・キャピタルによるコミュニティ活性化への期待。
- **新たなアソシエーションの動き** → 「地域性（場所）」と「共同性（共同意識）」を有し、地域に関わる「包括的機能」を備えたNPOである「コミュニティ的NPO」の出現。

地区の包括的な課題の解決を目指すNPOの事例		
FUSION長池	東京都八王子市	この法人は、主に多摩地域の住民に対して、暮らし全般に関する事業を行い、公益に寄与することを目的とする。
地区住民総参加型のNPOの事例		
夢未来くんま	静岡県天竜市熊地区	地区の292世帯(907人)すべてが加入
新田むらづくり運営委員会	鳥取県智頭町新田集落	地区の17世帯(人口55人)すべてが加入
まちづくり山岡	岐阜県山岡町	合併を控え、町の1,525世帯(人口5,000人)すべてが加入

(資料:『これからのコミュニティ』これからのコミュニティのあり方に関する調査研究会/財団法人 北海道市町村振興協会)

- **コミュニティを元気にするコミュニティビジネス**
    - ・ 地域の資源活用、協働を通じて成立。地域経済循環。住民間の結びつきと地域文化を継承。
    - ・ 課題……①ネットワーク確立の重要性/②地域のコミュニティ組織との連携強化の必要性
- (資料:「地域コミュニティ論」(山崎丈夫著)より)

## 2. 人と人のつながりの再生……コミュニケーション・ネットワークの重要性

- 地域では確実に人間関係の希薄化が進行/自己管理型の生き方の広がり/重要課題の軽視にも
  - 地域の空洞化を埋めていくためには、コミュニティにおいて無数の結びつきの糸を張り巡らし、誰もがその糸を手繰り寄せられるようなコミュニケーション・ネットワークが必要。
  - 地域共同管理を進め、住民参加を拡大していくために、**人と人を結びつける仕組み**が必要。
- (資料:「地域コミュニティ論」(山崎丈夫著)より)

## 3. ネットワーク(型)コミュニティ政策

### (1) 内発型の地域振興の動きとネットワーク型コミュニティ

- 経済や広域的課題はより大きな体制で(統合)、身近な問題はより小さな単位で(分権)解決へ。
- 地域の産業集積を基にした高度な連携による内発型の産業政策(産業クラスター政策等)。
- 一人一人の想いや能力をつなげる「草の根型」のアプローチ(ネットワーク型コミュニティ政策)。
- ネットワーク・コミュニティとは……「ある目的を持ってネットワークを使いながら市民社会に対して貢献的活動をする人々の集合」(小林隆/東海大学) → ICTと関連させて使用。

### (2) ネットワーク型コミュニティ創生の実験(事例に取り上げた取り組み)

(取り組み名)	(地域)	(キーワード)
① 津市げんき大学	津市+α	個人の想いに軸足を置いたやわらかいネットワーク 新しい形の協働の主体を創出
② プロジェクトみえちん	三重県+α	地域SNSを利活用したクロスメディア展開 産学官民連携、創造・発信型の地域づくり

(1) げんき大学とは？

**「津を元気にするために何かしたいと思う人、活動する人」を応援する**

- そして、想いのある人が機会が得て、みんなが柔軟につながり合うことで楽しいことをいっぱい起こしていく。
- 運営……市民でつくる実行委員会で運営／事務局は市役所関係課・大学が連携して設置。

(2) げんき大学の事業方針

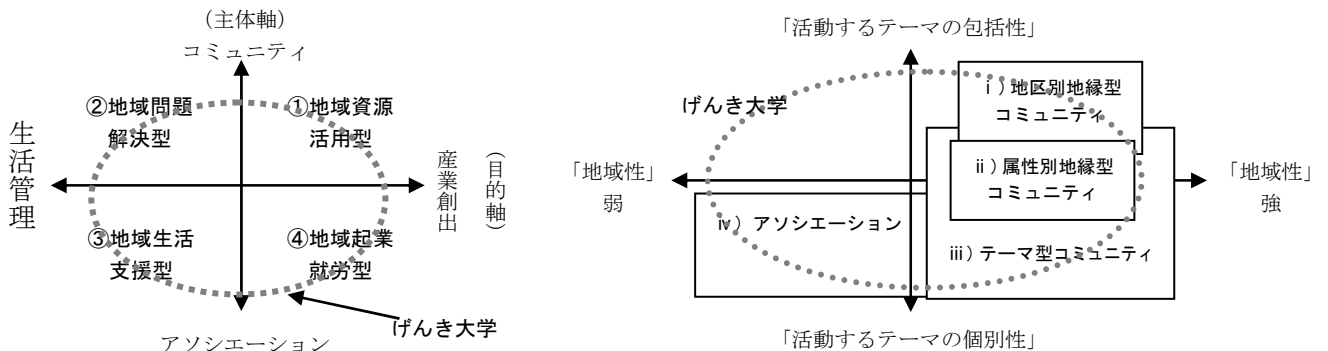
- 『機会をつくる』…津のまちへの想いを高め、想いのある人に参加の機会をつくる。
- 『実現を支援する』…津を元気にするための想いや活動の実現を支援する。
- 『ネットワークをつくる』…想いのある人、活動する人、支える人のネットワークをつくる。
- 『しくみを練り上げていく』…想いのある人が機会を得、つながり合って、活動を支え合うためのしくみをつくる。

(3) げんき大学がやってきたこと、進めること

- ① まちづくりの講座……基礎講座 → 企画講座 → 事業企画の実践
- ② 三重大学分校開校……地域実践授業のカリキュラムとして、前期で「企画」、後期で「実践」
- ③ サークル登録……多様な活動起こし、活動間のネットワーク、共同の情報発信など
- ④ 表現力を高め、発信する……げんき大学TV、ネットラジオ、ウェブ展開、デザイン企画・商品開発、テーマソングの作成。発信など
- ⑤ ネットワーク……ネット分校の開校（「みえぢん＋SNS」におけるクロスメディア展開）
- ⑥ 新しい仕組みづくり……大学と連携したネットワーク型コミュニティの制度設計・研究

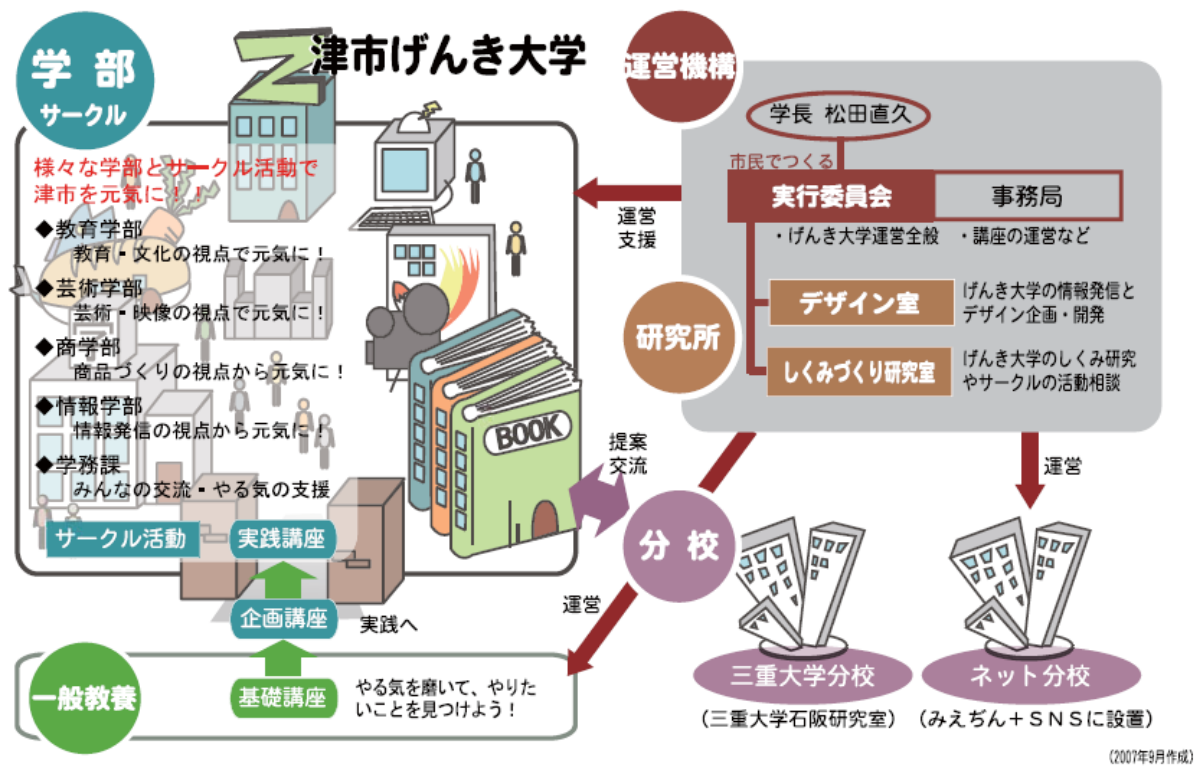
(4) げんき大学は、ネットワーク型コミュニティか？

- 津市とその周辺という「地域」を圏域とする「ネットワーク型の地域コミュニティ」。
- 個人の何かしたいという気持ちに軸足を置く → 公益とか、課題解決とかがスタートじゃない。
- 地縁型でもなく、テーマ型でもなく、特定のミッションが目的でもなく、中間支援組織でもない。
- 真面目な公益的な地域を良くする活動とはちやめちやな悪のり感覚の遊びとの境目が無い。こうしたごちゃ混ぜの多様で曖昧なところからこそ、新しい、これまでにないものが生まれる。



(資料:『まちづくり政策論入門』山崎丈夫著に基づき加筆・修正) / (資料:『自治的コミュニティの構築と近隣政府の選択』財団法人 日本都市センターに基づき加筆・修正)

図表：げんき大学の事業概要と体制イメージ

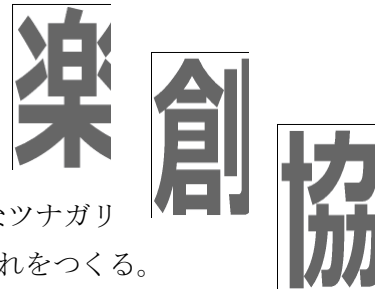


図表：げんき大学のスケジュール

	2006年度	2007年度	2008年度
1. 機会とスキルアップの支援 <b>一般教養</b>	オープンキャンパス 第1期基礎講座(終了)	オープンキャンパス 第2期基礎講座(終了)	公開提案会(公開審査)
2. げんきづくり活動の支援・実践 <b>学部</b>	実践活動 サークル	企画講座 各サークル活動の実践/支援/ネットワーク 企画・アイデア募集	実践講座(事業企画の実践)
3. ネットワークづくり <b>分校</b> <b>学祭</b>	石坂研究室 地域SNS 自主事業	三重大学分校 ネット分校(みえちん+ SNS) 学祭 津まつり企画ブースの運営 学祭 交流会(提案会と同時)	学祭 津まつり企画ブースの運営 学祭 活動報告会交流会
4. しくみづくりの研究 <b>研究所</b>	デザイン室 しくみづくり研究室	活動ポータルサイトの運用 げんき大学TVの放映 ネットラジオの放送 研究活動/三重大学石坂研究室と共同	新しいしくみの提案

(1) コンセプト

- 基本コンセプトは「笑門福来」。
- 企画する楽しみ、表現する楽しみ、「メディア」は、ひとのこころを動かすものでありたい。
- 発見し、創造することを通じて常にイキイキとなりたい。
- ひととひと、発想とカタチ、地域と地域。インターネット的なツナガリをつくり、また、メディアをクロスさせて、地域の情報伝達の流れをつくる。



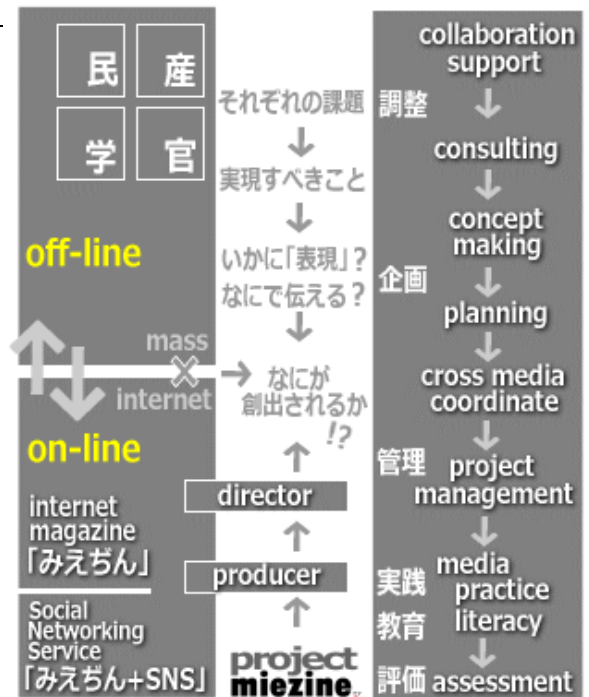
(2) プロジェクトみえぢん！？《目的》

- 三重県の情報通信インフラや、地域のメディアを大切にし、さらに利活用。
- いつでも、どこでも、だれでも活用ができる（ユビキタスな）地域情報化を支援。
- 産官学民それぞれの視点や立場を調整。
- 「みえぢん+SNS」は、アンテナ的な機能。
- 人がイキイキできる「表現」へのサポートと、それを創造し、発信していくことで、地域のツナガリやヌクモリをつちかいていく。
- 表現する舞台として、インターネットを軸に、他のメディアと連携（cross media）・協働。



(3) 「地域SNS」とは何か

- 基本の考え方は、地方・地域、生活空間を近しくするネットワークのなかで、「ひと」のつながりを熟成することで、現実社会でのスムーズな活動にさらに活かしていくことができる、ということ。
- 地域の産業、行政・団体、大学、NPOそして、住民、消費者が、実現すべきそれぞれの課題や悩み、壁、そして、解決のために、それをどのようにカタチにしていき、表現・創造するかに挑戦していく。
- ユビキタスなコミュニティ、つねにインターネットの中（on-line）と外（off-line）というキーワードを意識して、地域に育成するSNSだからこそその展開を広げていく。



#### (4) 「みえぢん+SNS」から外に出よう



- プロジェクトみえぢんは、ネットワークのなかで発見した個性豊かで、すばらしいコンテンツを持つ方々をサポートし、「みえぢんディレクター」として、ご活躍の場を創出していく。
- その企画された「事業」は、地域としての三重県のなかで、さまざまな成果をもたらせると信じる。

### 5. 個を生かす、やわらかいコミュニティの創造へ

#### (1) 多様なタイプのネットワーク型コミュニティが生まれてくる

- 今後、地域の特性や事情に合わせて、様々な性格を持ったコミュニティが模索され、多様なコミュニティ生まれてくるであろう。
- こうした動きを加速させて、豊かな地域社会を築くためにも、「個」の想いや志し、能力や資源を起点にして、「協働の主体」を創造する仕組みが必要である。そうした仕組みを整え、動きを促進させるのが公の役割であり、責務であろう。

#### (2) ゆるやかにつながるコミュニティを育む

- 楽しさ、やわらかさ、あいまいなところから新しいものが生み出される。杓子定規な自由のない組織からは新しいものはなかなか生まれない。
- 常に地域にいて、つながりを臨機応変に、柔軟にデザインできるコーディネーター的な人材が、いまこそ必要な時であり、そうした人材を育て、引き立て、地域で支えていくことが、これからの地域には強く求められる。